

謹賀新年

昭和十年元旦

工事畫報社
工事研究會

編輯だより

○新春辟頭の巨彈として、茲に本特輯號をお届け出来るのは非常なる悦びです。何よりも年末御多忙の中に、貴重なる時間を割かれて本號の爲に御執筆下された諸先生に對して、厚き感謝の意を表する次第です。

○建築の寫真や記事をもつと豊富に載せ得なかつたのは残念であるが、廣田先生の論文は建築設備と人間生活の日常との密接な關係を再認識せしめて遺憾なく、遞信省の二電話中繼所は、よし建物は小さくとも、この種建築の新動向を察知せしむるに充分であり、殊に福島電話中繼所の材料倉庫の明快なる姿は之に冠して1935年型と稱するも異論のない所であらうと思ひます。遞信省營繕課の吉田技師、中山技師、木村技師の三氏にお禮を申し上げます。

○美容院建築として我國第一の豪華を誇る。クラブ・ピュウティ・ハウスの建築は、中山太陽堂の長瀬鐵男

氏の好意によるもの、長瀬氏は家具及室内裝飾に豊富なる知識を有せられ、この建築の配色その他同氏の創意になるところ甚だ多いとのことです。

○松江大橋、大阪地下鐵、廣島電氣の下山發電所、信濃川水力千手發電所等の工事は何れも本號に斷然光彩を添へるもので、大阪地下鐵の潜函工法信濃川水力の大壓力隧道等我國工事界の粹と云ふべきあります。

○かくして工事畫報は創刊第十一年に入つて、更に新たなる勇氣と自信を以て發展をつゝけます。創刊當初の念願既に成就せるものもあり、成りつゝあるものもあり、然も年と共に號と共に使命の一層重大なるものあるを痛感致します。どうか、我等の微意を諒され來ります年に於ても一層の御支援をお願ひ致す次第です。

土木建築工事畫報 第十一卷 第一號		定價七十錢（稅二錢）	每月一回一日發行 一ヶ年十二冊發行
購 購 料	昭和九年十二月廿六日印刷納本 昭和十年一月一日發 行	廣 告 料	
壹 部 七 十 錢 稅 二 錢	編輯兼印 刷發行人	本誌に廣告掲載御希望の向は御一報次第社員參上御相談に應す。	
參 月 貳 圓 稅 共	岡崎保吉		
六 月 四 圓 同	東京市豊島區長崎仲町二丁目三六二九		
一 月 八 圓 同	共同印刷株式會社		
外 國 一 部 稅 共 七十八錢	東京市小石川區久堅町百八番地		
注文は總て前金、送金は必ず振替貯金にて、東京七〇貳六五番宛拂上の事、但し六ヶ月以降の申込は御希望により集金郵便を差出します。	發行所 工事畫報社 東京市麹町區丸ノ内三丁目六 電 話 丸ノ内二六三三番 振 替 東京七〇貳六五番	大賣捌所 東京堂・東海堂 大東館・北隆館	